

概要

最近のシェイクスピア劇上演に着目し、翻案上演の可能性と問題点について、特に狂言・能・歌舞伎への翻案を中心に論じた。伝統芸能のドラマツルギーと静養のドラマツルギーをどのように考えるか、実際の上演ではどのようなスタイルが可能なのか、実際の上演を見た劇評も含め、文化交流の観点から論じた。また、日本人によるシェイクスピア劇に上能・狂言の要素を取り入れたことで、海外上演のおりには、国際文化交流、異文化理解が生まれることになるのだ。(変型B5)

本論文は『武蔵野短期大学研究紀要』(第6輯、平成4年6月)よりの一部加筆修正を加えた上で転載。